

みんなで子育て みんな違ってみんないい

福岡県筑紫野市
ライブラリー
おもちゃ図書館赤ずきん



赤ずきん誕生

1986年11月1日筑紫野市社会福祉協議会におもちゃ図書館赤ずきんの設置申請をして開館準備に入りました。1987年9月12日さるびあ学園にて「おもちゃ図書館赤ずきん」を開館しました。以降、月に2回の定期開館および不定期の臨時開館ほか、数々のイベントを開催し現在に至ります。

当時さるびあ学園は障がい児だけの施設でしたが、特定の子どもだけが利用するのではなく社会に開かれた施設でありたいという社会福祉協議会の考えにより、障がいのある子もない子も共に遊び育ち合う場所が実現しました。

そこで、グループ名を考えている時にメンバーの一人が作った赤ずきんの早変わり人形から、「おもちゃ図書館（ライブラリー）赤ずきん」と名付けました。

支えられ、支えあって

赤ずきんは一つのおもちゃ図書館として活動しているだけではなく、社会福祉協議会のボランティア連絡協議会にも入っています。手話・朗読・点字・視覚支援ガイド・拡大写本・おもちゃ病院・おもちゃ図書館赤ずきんの7グループの代表者が月に1回集まり代表者会を開き、活動報告、情報交換、イベントの計画などを行っています。

おもちゃ病院には毎月おもちゃの修理でお世話になっています。おもちゃ病院から赤ずきんの開館日に毎回参加してくれていた時期もありました。

点字ボランティアには赤ずきんの絵本数冊に点字を付けてもらいました。遊びに来た子どもたちが点字というものに触れるいい機会になっています。

今は折り紙の先生がボランティアとして毎回来てくれています。子どもたちや保護者、赤ずきんのボランティアも折り紙を教えてもらっています。他にもビーズやレジンアクセサリーのハンドメイド作家やイラストレーターなど、いろんな人に少しずつかわってもらって楽しい活動を続けています。

手作りの布おもちゃがいっぱい

たくさんの布おもちゃがあります。赤ずきんの設

立当初からのメンバーに洋裁のプロがいます。当初は彼女の指導の下、月2回ボランティアが集まり布おもちゃを製作していました。しかしメンバーの子どもたちが成長するとボランティアもそれぞれの仕事に戻り、製作する人がいなくなりました。それから、作り手は一人なのですが彼女は型紙があるものは一日で仕上げる腕を持ち、活動も40年近くなるため布おもちゃの数量もじゅうぶんです。

今人気なのは子どもが乗れる大きさのワニのぬいぐるみ6匹や、よちよち歩きの子どもと同じくらいの背丈のウサギ3匹。来館した小さな子がウサギにこんにちはと挨拶をします。お雛様や鯉のぼりなどの季節の物も多く、子育てサークルが貸し出し利用をされています。布絵本・エプロンシアターも多数あります。

布おもちゃ本体はクリーニングに出し付属の小物はアルコールを噴霧して消毒しています。コロナ禍以降は布おもちゃの利用は減ったように思います。

仲間がいっぱい～近隣のおもちゃ図書館との連携～

長い間活動を続けられたのは、おもちゃ図書館の仲間が傍にいたからだと思います。隣の小郡市のおもちゃ図書館ゴリリンクラブと何回もイベントを計

画・実施しました。赤ずきんだけではできなかったことができました。お互いにおもちゃを交換して利用したりもしました。

福岡県内にはおもちゃ図書館が 15 か所ほどあり毎年勉強会などで集まります。宗像のおもちゃ図書館は【アン】というおもちゃ屋さんになっていて、素敵なおもちゃがたくさんあります。ずっと仲良くして活動のアドバイスを貰っています。

社会福祉協議会と行政に支えられ

活動当初はおもちゃの保管場所を確保するのが大変でした。さるびあ学園に保管場所はなく、社会福祉協議会の倉庫を貸してもらい、開館日の度に倉庫からメンバーの車でさるびあ学園におもちゃを運びました。開館の度に遠い倉庫からおもちゃの運搬するのは大変だと理解してくれた当時の福祉課が、コミュニティセンターの裏にボランティア室とおもちゃ用の物置小屋を用意してくれました。

そのボランティア室は点字ボランティアと活動日

が重ならないので共用しています。点字はパソコンを使いますのでパソコン・プリンターを置くためのスペースが必要です。おもちゃ図書館赤ずきんもおもちゃを置いて遊ぶスペースと保管場所が必要です。赤ずきん開館の際には来館者が点字のパソコンやプリンターを壊さないように、メンバーが配慮をしながらボランティア室内の会場設営をしています。

現在はコミュニティセンター老朽化の為、建て替えが計画されています。行政も乳幼児中心のプレイルームを検討しているようで、赤ずきんの活動について興味を持たれています。コロナ禍以降、乳幼児の親子が主な来館者です。



木のおもちゃで遊ぶ子ども



● 代表より一言

「こども達とともに、おもちゃとともに、たくさんの仲間とともに」

おもちゃ図書館赤ずきんは自由に参加し自由に安全に遊べる場所の提供を心掛けてきました。活動が続ける中で、来館者の笑顔とこども達の成長が見られてとても嬉しく思っています。赤ずきんの活動は家の中だけでなく外に出て仲間と交流しながら子育てをする喜びを与えてくれました。その活動を通して色々な人と出会え、またその人から他の人と繋がり子育ての仲間が増えました。赤ずきんの来館者との話の中から「子育てネットワーク」「多胎児サークル」等がうまれました。今はボランティア室が狭い為、来館者は乳幼児の親子が多く大きなこどもはしっかり遊べません。今後、いろんなこども達が安全に遊べる広い居場所ができるように願っています。また、おもちゃの管理とメンバーのボランティアに無理のない活動を考えて赤ずきんを継続していきたいと思っています。私たちの活動は利益を生むものではありません。行政の理解と協力を得ながら続けていきたいと思っています。(大山朝子)

場所

福岡県筑紫野市二日市中央 5-5-18 二日市コミュニティセンター

日時

第2・第4土曜日 14:00～16:00



筑紫野市社会福祉協議会
ウェブサイト